

▼ＩＮＤＥＸ▼

■【内部監査情報】
・内部監査（標準会計監査）及び（フォローアップ監査）が始まります。
・内部監査報告書（競争的資金の監査）の意見調整について
■【監査ニュース】
・関学大がフィッシング被害…1466 人分個人情報が漏洩 職員が不正サイトにアクセス　外 5 件
■【連載企画】
・小〇はつらいよ「参考書としての内部監査報告書」編
■【Audit Cafe】
・息抜き『漫画編①』

表題写真：不老ふ死温泉の夕日

内 部 監 査 情 報

・平成 28 年度内部監査（標準会計監査）及び（フォローアップ監査）が始まります。

「平成 28 年度内部監査基本計画書」に基づく、「標準会計監査」と「フォローアップ監査」が 12 月初旬から始まります。

今年度の「標準会計監査」は 11 部局、「フォローアップ監査」は 15 部局が該当しております（重複している部局につきましては、「標準会計監査」の日程の中で「フォローアップ監査」を実施させていただきます）。

各監査の該当部局の皆様には、現在日程調整をさせていただいているところですが、11 月早々にも日程の事前連絡をさせていただく予定です。



なお、今年度の「標準会計監査」では、基本計画書に記載のとおり、「物品管理業務マニュアル」（平成 28 年 3 月改正）に基づく「物品管理業務の適正性」をメインに監査を実施する予定ですが、詳細につきましては、11 月中旬にお送りする実施通知にてご連絡いたします。



また、「フォローアップ監査」については、昨年度実施した 3 つの監査（「競争的資金の監査」、「標準会計監査」、「外国人留学生の受入れ等に関する監査」）において改善要求（「注意事項」は除く）を行った項目と、フォローアップ監査において監査結果が「経過観察事項（昨年度は、「改善事項（未改善または改善計画の進捗に著しい遅延があると判断した事項）」は無かったため）」となった項目について、各部局等から提出された「改善計画（状況）回答書」に基づき、対応状況とその効果の検証をさせていただく予定です。

なお、昨年度と同様に、フォローアップ監査の結果、未改善または改善計画の進捗に著しい遅延があると判断した事項については、運営企画会議等において部局名を公表いたしますので、未改善となっている事項がないか、今一度ご確認いただければと思います。

・内部監査報告書（競争的資金の監査）の意見調整について



内部監査（競争的資金の監査）では、特別監査として、①研究室ヒアリング、②物品の実査（備品的消耗品含む）、③雇用者（雇用・アルバイト等）へのヒアリング、④取引照会を実施させていただいております。

①～③につきましては、実地監査として実施させていただきましたが、④取引照会につきましては、実地監査終了後に、提出いただきました関係書類をもとに、取引業者に対し、照会文書を送付し、受注日等の回答をいただいた上で、両者に齟齬がないかについて、確認させていただいております。

60 社を超える照会となり、少々時間を要したところですが、現在、確認作業が終了し、質問事項等がある部局には、改めて照会させていただいているところです。

なお、取引照会の質問事項への確認が終了次第、**内部監査報告書（案）を取りまとめ、「監査結果」の記載内容に、事実の相違等がないか、意見調整**をさせていただく予定ですので、引き続きよろしくお願いいたします。

最後に、取引照会に関する資料の提出につきましては、監査後三日以内という厳しいスケジュールにもかかわらず、速やかにご対応いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

【内部監査計画・報告】の詳細は、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/kansa-keikaku/kansa-keikaku-top.htm

監 査 ニ ュ ー ス

・関学大がフィッシング被害…1466 人分個人情報が漏洩 職員が不正サイトにアクセス【10/7 産経新聞】
・学生に何度も恋愛感情伝えるメール、佐賀大准教授を処分【10/3 朝日新聞】
・科研費 新規応募は初の 10 万件超【10/14 毎日新聞】
・日本の大学、順位低迷の理由に予算不足も？【10/20 産経新聞】
・着服 後援会費 179 万円 岩手大、男性職員を諭旨退職【10/26 毎日新聞】
・流し台から水銀捨てた教授…大学が賠償求め提訴【10/28 読売新聞】

連 載 企 画



生まれも育ちも栗原築館、姓は小〇名は卓也、人呼んでフーテンの卓が引き起こす様々な出来事を、なぜか国立大学法人業務に長けた妹が見事に解決していくコーナー！
愛読者の皆様が、早くも「設定に無理があるのでは・・・」と気がつき始めている事はさておき、第２回目となる今回は、「参考書としての内部監査報告書」というお題でご説明いたします。

平成２８年６月に監事から総長へ提出された「平成２７年度監事監査報告書」において、改善が望まれる点として次のような記載がありました。

> ③ 内部監査報告書の活用
>
> 内部監査報告書については、当該部局での事案としてとらえることなく、
> 不適格な対応或いは好事例が例示されていることから、各部局において
> 処理状況等を確認する資料として活用する等の水平展開を期待する。
>
> （「平成２７年度監事監査報告書」より抜粋）

内部監査報告書というと、自分たちに対する指摘事項が記載された“嫌なもの”という悪いイメージを持っている方がいらっしゃるかもしれません。
確かに、内部監査報告書には、内部監査において発見された不適切事案に関する指摘事項が記載されています。
しかしながらそれは、日頃の業務において気を付けるべき事項が記載された“参考書”と見ることもできるのではないでしょうか。

今回は、「参考書としての内部監査報告書」をご紹介したいと思います。

卓「内部監査報告書なんてものはね、自分の部局の指摘事項がある時ぐらいしかちゃんと見ないもんだろ。自分のところが大丈夫だったら、ハイ OK！ポイなんて・・・」

妹「何言ってるのお兄ちゃん！他の部局で指摘された内容だからって、決して他人事ではないのよ。報告書に書かれた指摘事項が自分の部局で起こらないようにするにはどうしたら良いかって、考えながら見ることが大事なのよ！」

内部監査報告書には２つの種類があります。

一つは、すべての監査対象部局に関する監査結果を総括して掲載する「要約版」です。こちらは、各種会議へ附議するのと併せて、監査室の WEB サイトへの掲載も行っています。
（http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/2-2index.html）

もう一つは、監査対象部局ごとにより詳しく監査結果を記載する「部局別詳細版」です。こちらは、監査室から監査対象部局ごとに送付しており、部局においては自らの部局の分のみ確認することができます。

「部局別詳細版」については、自分たちが受けた監査の結果としてご確認いただいているところかと思いますので、今回は「要約版」に焦点を当ててみたいと思います。

内部監査報告書（要約版）は、以下のような構成になっています。

【内部監査報告書（要約版）の構成】

構成	備考
Ⅰ　監査実施の概要	監査目的や対象部局、実施期間、監査手続等について記載されています。
Ⅱ　監査結果の要約	内部監査報告書の中心となる部分であり、監査の結果が記載されており全般的所見と個別の指摘事項に分けて記載されています。
1．全般的所見	
2．指摘事項 ①改善事項 ②注意事項（フォローアップ監査の場合は、「経過観察事項」）	
Ⅲ　改善要求等	Ⅱに記載された不適切な事例に対して、改善の要求が行われます。
1．指摘事項に対する改善要求	
2．本部事務機構に対する意見	
3．部局の取り組み事例について	

この中で、特に注目して見ていただきたい項目が、「Ⅱ　監査結果の要約」と「Ⅲ　3．部局の取り組み事例について」の２つです。

注目１：監査結果の要約

「Ⅱ　監査結果の要約」は、先の表のとおり、「１．全般的所見」及び「２．指摘事項」で構成されています。

「１．全般的所見」では、最終的な監査結果を集約的に記載しているほか、業務の執行にあたってとるべき手続きやその意義、また、どのような観点から監査を実施しているかといったことなどが記載されています。

ここを読むことで、普段業務で実施している手続きは何のために行っているのかということを考える機会を持っていただくことができるかと思いますし、さらに、監査の観点は業務を実施するうえで気を付けるポイントでもありますので、日々の業務で少しでも意識していただけると幸いです。

「２．指摘事項」では、当該内部監査においてどのような不適切事例があったのか、その概要を掴むことができます。

自分の部局で指摘を受けた事項については、目に留まるかと思いますが、自分の部局では該当がなかった指摘事項についても目を通していただいていますでしょうか？「うちではこの指摘はなかった、よかったよかった」で終わってしまってはいないでしょうか？

指摘事項に挙がっている事案は、決して指摘を受けた部局固有の問題ではありません。同じような事案が起こるリスクは、どの部局にも潜んでいると考えられます。

学内でどのような指摘事項、不適切事例があったのかを「２．指摘事項」の項目から確認いただき、同じことが起きない体制・手続きになっているか改めて部局内で見直し、必要な場合には改善を図っていただければと思います。



なお、指摘事項の詳細については、監査室のウェブサイトに掲載している「内部監査事例集」において紹介しています。事例集では、なぜそれが不適切なのかという不適切事例の問題点や、今後同じような事例が発生しないようにするためにはどのような対策が必要かといったことも解説しています。ぜひ「内部監査事例集」を活用いただき、不適切事例発生の防止に努めていただければと思います。

注目２：部局の取り組み事例

「Ⅲ　３．部局の取り組み事例について」では、部局が独自に実施している取り組み、好事例を記載しています。

部局における事務手続きの効果的な周知方法や、適正な取扱いを徹底するための業務フロー、チェック体制の工夫など、業務の適正化に資する取り組み事例を学内で共有いただくのが、この項目の活用方法の一つと考えています。

そっくり同じことをするのは難しい部分もあるかと思いますので、自部局の状況を勘案しつつ、業務を見直す際のヒントにしていただければ幸いです。

卓「なるほどねぇ、ところで、監事が言っている『水平展開』っていうのは、一体どういう意味なんだい？」

妹「一般的には、“既存の技術やノウハウを他の領域にも適用する”っていう意味かな。
今回の場合は、“既存のノウハウである『内部監査報告書』が、部局内での処理状況等を確認するための『参考書』として活用されることを期待する”っていうことだと思うの。
ところで・・・私からも一つ質問していい？
お兄ちゃん、いつから大学の職員になったの？」

卓「それを言っちゃあ、お終いよ。」

以上、「参考書としての内部監査報告書」でした。

学内における水平展開として、部局での内部監査報告書を活用していただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

このコーナーでは、皆様からの疑問・質問をお待ちしています。
日頃の業務の中でのちょっとした疑問（なんでこんな作業が必要なのだろう）や、
上司や先輩にはいまさら聞けないけれど、実はよく理解できていないことなど、
いただいたご質問には出来る限り誠意をもってお答えします！
ご質問は、メール、ファックス、お手紙で！（匿名でも大丈夫です）

Audit Cafe

毎月、監査室のスタッフが交代で「つぶやく」このコーナー！
今回のつぶやきは、「 息抜き『漫画編①』 」と言うお題のようです。
いったいどんな話になることやら・・・。

おうでぃっとカフェは息抜きのコーナーですが、息抜きといえば「漫画」ということで、今回は漫画のお話をしたいと思います。

漫画といえば手塚治虫ですが、**今年は手塚先生が漫画家デビューしてちょうど７０年目という節目の年**だそうです。

手塚先生が亡くなった平成元年当時、私は小学生で、手塚先生が亡くなったことをテレビのニュースで見ていましたが、当時の自分の感覚では「昔の漫画家」、「時代遅れの漫画」という印象しか持っておらず、まったく手塚先生の作品には触れる機会はありませんでした。現在、４０歳近い私でもそういう印象なので、今の１０代２０代の方からすると「大昔の漫画」になってしまうでしょう。



その後、大人になり漫画本を自由に買えるようになったころ、手塚治虫の漫画が面白いということをよく聞くようになり、読んでみたところ、かなりの衝撃を受けてしまいました。

子供の頃に読んでいた漫画は、どちらかというと読んでいる間は夢中になるけれど、読み終わると何も残っていないというような、一時夢中になることが目的のようなものでした。一時夢中になることが目的の漫画もそれはそれで素晴らしい作品なのですが、手塚作品は読んでいる最中は夢中で読みますが、読み終わった後にもいろいろ考えさせられてしまうところがありました。私が子供の頃に読んでいた漫画とは確実に異質なものでした。



有名な作品だと**「火の鳥」**で、名前は知っているという方も多いと思います。「火の鳥」は文庫本で全１３巻ですが、基本的に各巻１冊で〇〇編という形になっており、基本１冊で１つの物語が完結するので読みやすいです。

どれも素晴らしい内容ですので、おそらく、１冊読んでしまうと、全部読みたくなると思います。

他にも*「ブッダ」*、*「アドルフに告ぐ」*、*「日だまりの樹」*、*「ブラックジャック」*など十代のうちに読んでおけばよかったと思う作品がたくさんあります。ただし、手塚先生の作品は数がかなり多いため、*「サンダーマスク」*のように、ごく稀に「？」な作品もありますので、ご注意ください。

手塚先生といえば、次に思い浮かぶのは**白土三平の「カムイ伝」**。

かなり個人的な思いつき、かつ乱暴な繋がりで申し訳ございませんが、お許しください。

「カムイ伝」は文庫本で全１５巻、「火の鳥」のように短い話のまとまりではなく、一つの物語です。絵柄も手塚先生のように万人受けするような絵柄ではないので、敷居が高く感じられますが、こちらも読み終わった後にいろいろ考えさせられてしまいます。

江戸時代の物語で、士農工商、その他の身分の様々な登場人物がおり、誰が主人公なのかよく分かりませんが、それぞれがそれぞれの苦しみを抱えながらもより良い方向を模索し、なんとか生きており、それぞれが主人公のように感じられます。

手塚先生ほどメジャーではないかもしれませんが、漫画の内容は素晴らしいです。



ちなみに、「カムイ伝」を連載するために創刊された雑誌**「月刊漫画ガロ」**を作り、初代編集長となった長井勝一さんは塩釜市出身です。

塩釜市には「長井勝一漫画美術館」があり、「月刊漫画ガロ」に関連する漫画家（水木しげる先生など）の原画などが展示されてあります。

また、この美術館では不定期にイベントがあり、「月刊漫画ガロ」に関連した方のトークショーやライブが開催されています。

今までに永島慎二、しりあがり寿、友部正人、みうらじゅん、など少しマイナーですが、漫画好きにとっては豪華な方々が来ています。



最後にみうらじゅんと言えば、先日ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランの愛好家ですが、「アイデン&ティティ」という漫画の作者でもあります。
１０年以上前に映画化もされた作品なので、ご存じの方も多いのではないでしょうか。
「アイデン&ティティ」には主人公にしか見えない神様のような存在としてボブ・ディランが登場し、悩める主人公にアドバイスしていきます。
ノーベル文学賞の受賞でボブ・ディランに興味が沸いた方にお勧めします。

今回は、「昔の漫画もかなり面白い！」という話でした。

（O）

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。
引き続き、「おうでぃっとめーる」をどうぞよろしくお願い申し上げます。
バックナンバーは、監査室 WEB ページをご覧ください。

◆その他、各種お問い合わせは...

【電話でのお問い合わせ】
東北大学監査室
０２２－２１７－４８７４（監査室長：佐藤）
０２２－２１７－５６８０，４８８０（平野、小原、綱川、杉山）

【メールでのお問い合わせ】
東北大学監査室
kansa@grp.tohoku.ac.jp



Copyright(C) Audit Office,Tohoku University . All rights reserved.
本メールの無断転載を禁止します